

令和 2 年度

「運営に関する計画」

大阪市立諏訪小学校

令和 2 年 4 月

大阪市立諏訪小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○子どもが安心して学校生活を送るための指標である「学校へ行くのは楽しいですか」という児童アンケートでは、肯定的回答をする割合が年々減少している。特に高学年になるほど割合が低下していく傾向にあり、中期目標達成のためには何らかの対策が必要である。また、安全な学校としての指標である「廊下を走らず右側通行をしていますか。」という児童アンケートでは、肯定的回答の割合は昨年度と同程度であり、継続した指導に加えた取り組みが必要である。児童の規範意識を高め、楽しく学校に登校できることが、子どもが安心して成長できる安全な学校として不可欠である。

○本校の児童は、大阪市学力経年調査において、各学年を平均すると大阪市の平均と同程度の学力を身につけている。しかしながら、小学校学力経年調査では市平均の7割に満たない児童が13%であり、基本的な学習内容を理解していない児童が多いと考える。また、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、総合評価がDとEの児童の割合は年々改善しているので、引き続き運動能力の向上に向けた取り組みを行っていく。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

・児童が安心して学校生活を楽しめるために、校内児童アンケート調査で、「学校に行くのは楽しいですか」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を向上させる。

【平成28年度：90%→平成29年度：87%→平成30年度：86%→平成31年度：84%→令和2年度目標：92%】

・安全意識や規範意識を高めるために、校内児童アンケート調査で、「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を向上させる。

【平成29年度：82%→平成30年度：82%→平成31年度：83%→令和2年度目標：85%】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・学力の底上げをめざし、小学校学力経年調査における市平均の7割に満たない児童の割合を減少させる。

【平成30年度：13%→平成31年度：12.6%→令和2年度目標：11%】

・基礎体力及び運動能力の向上を目的に、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、総合評価がDとEの児童の割合を減少させる。

【平成28年度：男子54.3% 女子36.2%→平成29年度：男子37.1% 女子35.2%→平成30年度：男子31.4% 女子27.0%→平成31年度：男子44.9% 女子34.2%→令和2年度目標：男子40% 女子28%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を91%以上にする。（平成31年度：91.0%）
- ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・校内児童アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいですか。」の項目について、「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を84%（前年度2月）から92%（今年度2月）以上にする。
- ・校内児童アンケートにおける「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について、「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を83%（前年度2月）から85%（今年度2月）以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ・令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（平成31年度：67.5%）
- ・令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「20mシャトルラン」の平均の記録を、大阪市平均並みの男子：48回 女子：38回以上にする。（平成31年度男子：39.54回 女子：32.54回）

学校園の年度目標

- ・令和2年度の小学校学力経年調査における国語科の「勉強は好きですか」という質問に対して「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を61%以上にする。（平成31年度全教科平均：60.4%）
- ・令和2年度末の20m走のシャトルランと、ソフトボール投げの平均記録を10%以上、年度はじめより向上させる。
- ・校内児童アンケートにおける「給食後にきちんとうがいをする事ができていますか。」の項目について、「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を74%（前年度2月）から80%（今年度2月）以上にする。
- ・給食時間や栄養指導を通して、好き嫌いをせずに残さず食べる児童を増やし、給食の残食率を今年度5月より改善（2月調査）させる。

(様式2)

大阪市立諏訪小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を91%以上にする。(平成31年度: 91.0%) ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ・令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内児童アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいですか。」の項目について、「はい(どちらかといえばはい)」と答える児童の割合を84%(前年度2月)から92%(今年度2月)以上にする。 ・校内児童アンケートにおける「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について、「はい(どちらかといえばはい)」と答える児童の割合を83%(前年度2月)から85%(今年度2月)以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号1 施策名 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめや暴力行為について話し合い、情報を教職員間で共有することで、早期発見に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>月1回子どもに「アンケート」を実施する。</p> <p>得た結果を学年会・生活指導部会等で取り上げて情報を共有する。</p>	
<p>取組内容②【施策番号2 施策名 道徳心・社会性の育成】</p> <p>学級活動を充実させて、仲間づくりを進める。また、学年会で共有する。</p>	
<p>指標</p> <p>学級活動での学級集会や、20分休憩や昼休みを活用したみんな遊びの時間を月3回以上設ける。</p>	

<p>取組内容③【施策番号2 施策名 道徳心・社会性の育成】</p> <p>友だちのいいところを見つけたり、学校で楽しかったことについて話したりする場を設定する。</p>	
<p>指標</p> <p>帰りの会等、学級の実態に合わせて、週2回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容④【施策番号1 施策名 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>たてわり班（キッズファミリー）を活用して異学年交流を充実する。</p>	
<p>指標</p> <p>キッズファミリーの活動を年10回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策番号2 施策名 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳科の時間だけでなく、学級活動の時間にきまりを守ることの大切さについて考えあう時間を設ける。</p>	
<p>指標</p> <p>学期に1回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容⑥【施策番号1 施策名 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>廊下や階段に矢印やポスターをはり、強調週間を通して児童に安全の意識を高めるように啓発する。</p>	
<p>指標</p> <p>学期に1回強調週間を設け、実践する。</p>	

(様式 2)

大阪市立諏訪小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ・令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ・令和 2 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(平成 31 年度: 67.5%) ・令和 2 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「20m シャトルラン」の平均の記録を、大阪市平均並みの男子: 48 回 女子: 38 回以上にする。(平成 31 年度男子: 39.54 回 女子: 32.54 回) <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度の小学校学力経年調査における国語科の「勉強は好きですか」という質問に対して「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 61% 以上にする。(平成 31 年度全教科平均: 60.4%) ・令和 2 年度末の 20m 走のシャトルランと、ソフトボール投げの平均記録を 10% 以上、年度はじめより向上させる。 ・校内児童アンケートにおける「給食後にきちんとうがいをする事ができていますか。」の項目について、「はい (どちらかといえばはい)」と答える児童の割合を 74% (前年度 2 月) から 80% (今年度 2 月) 以上にする。 ・給食時間や栄養指導を通して、好き嫌いをせずに残さず食べる児童を増やし、給食の残食率を今年度 5 月より改善 (2 月調査) させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策番号 5 施策名 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>児童の考えを広めたり、深めたりすることをねらいとして、授業の中に話し合い活動を取り入れる。</p>	
<p>指標</p> <p>1 日 1 回、授業中に話し合い活動を取り入れ、活動後に振り返りを行う。</p>	

<p>取組内容②【施策番号5 施策名 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学習内容の基礎基本の定着を図るとともに、活用力を高めるために、学習タイム（αタイム）を実施する。</p>	
<p>指標 週に1回、国語・算数のαドリルを活用した学習を10分間程度行う。</p>	
<p>取組内容③【施策番号5 施策名 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童の興味関心を高めるために、ICT機器を活用する。</p>	
<p>指標 月に3回以上活用する。また、タブレットの活用についての研修を行う。</p>	
<p>取組内容④【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育の学習時に「走る」「投げる」などの基本動作を身につけさせる運動プログラムを活用する。</p>	
<p>指標 20m走シャトルランとソフトボール投げの記録を5月と11月にとり検証を行う。</p>	
<p>取組内容⑤【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 こまめな手洗いと給食前後にうがいをする習慣をつける。</p>	
<p>指標 ・年2回（6月・11月）手洗い・うがいがんばり週間を実施する。 ・学校保健委員会の開催やポスターの掲示。 ・月1回発行の「保健だより」を活用して、手洗い・うがいをしようとする児童の意欲を高める。</p>	
<p>取組内容⑥【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 心身ともに健康ですぐすために、児童の食への関心を高める。</p>	
<p>指標 ・食に関する指導や月1回発行の「給食だより」、掲示物を活用して、食への興味関心を高める。 ・5月と1月に残食率を調べる。</p>	